

## 農機11台初荷 安全第一に



JA筑紫は1月8日、JA本店で、令和2年農機初荷出発式を行いました。購入された農機具で作業が安全に行われるように祈願し、初荷を見送りました。

組合員で構成する農機情報員やJA関係者等20名が参加。真新しい田植え機やトラクターなど11台の農機が、のぼりが飾られたトラックに積まれました。参加者の拍手に送られ、縁起物の搬入を心待ちにしている組合員のもとへ一斉に出発しました。

白水組合長は「農機を届けることで、組合員と第一線で接することができます。組合員の要望にすぐ応え、JAの信頼に繋がるように頑張ってください」と話しました。

## よりよい支店を目指して



JA筑紫は1月14日、金融店舗28カ所で令和元年度店舗美化コンクールを行いました。この取り組みは、職員の日頃からの店舗美化に対する意欲や協同意識を醸成。地域の利用者が親しみやすい店舗づくりを行い、さらなる自己改革に繋げることを目的としています。

審査は、店舗内・外、職員の身だしなみ、挨拶等6項目で計60点の点数を競います。審査員は、JAの金融共済部部長をはじめ各課課長と推進課職員、JA福岡信連職員の計9名がつとめ、3班に分かれ審査を行いました。各店舗で工夫を凝らしたレイアウトなどが見られ、審査員は真剣な眼差しで、各項目を確認しました。

JAの担当職員は「これからも、組合員や地域の利用者の皆さまに満足していただける環境を作り続けてほしいです」と話しました。

## 料理で地元農産物と地域の食文化をPR



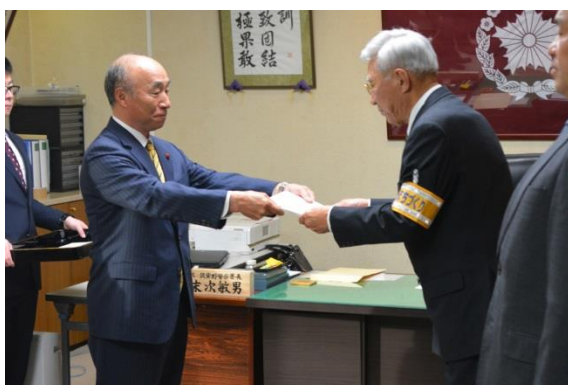
筑紫野市の女性農業者で構成する筑紫野市農業女性グループ協議会は1月16日、筑紫野市総合保健福祉センター カミーリヤで、第31回農業女性と消費者のつどいを開きました。筑紫野市在住の生産者や消費者40名が参加。生産者と消費者と一緒に料理をすることで、地元農産物の安全性と美味しさを知ってもらい、地域の食文化を育むことが目的です。

生産者は農産物の素材の味を活かした「生姜ご飯」「白ねぎと人参のドレッシング和え」「味噌だんご汁」など10種類の料理を準備。消費者は生産者に農産物の特徴などを聞きながら料理しました。

食事の合間には、消費者が生産者にアドバイスをもらう意見交換会を実施。「キウイモのオススメの調理方法を教えてほしいです」「野菜を長期間保存するにはどうしたらいいですか」など多くの質問があがりました。

初めて参加した消費者は「今まで作ったことのないレシピや使ったことのない野菜などの料理があり、とても参考になりました。ぜひ自宅でも作ってみたいです」と笑顔で話しました。

## まちの安全に貢献



JA筑紫は1月17日、春日警察署と筑紫野警察署で、安全で安心なまちづくりに役立つ資機材の贈呈式を行いました。

筑紫野署では、末次敏男署長や、JAの白水組合長等が参加。JAが防犯組合へモバイルプロジェクターセットと、交通安全協会へ反射材1100個を贈りました。

JAは、特別金利のマイカーローン販売し、飲酒運転の撲滅、交通事故防止を組合員や利用者へ呼び掛けています。またローン収益の一部を使い、安全安心まちづくりに役立つ資機材を関係団体へ贈る取り組みを10年以上続けています。今回は、平成30年9月3日～令和元年5月31日まで販売した「飲酒運転撲滅マイカーローン」の収益の一部を使い、贈呈を行いました。

白水組合長は「地域に貢献できる取り組みです。様々な施設で行う講習会や、学校の交通安全活動などで活用してほしいです」と話しました。

末次署長は「貴重なものをいただき大変ありがたいです。今後、地域の安全を守るため大切にに使わせていただきたいです」とお礼を述べました。

## JAの自己改革について理解深める



JA筑紫は1月17日、JA本店で「令和元年度組織リーダー研修会」を開きました。評議員や農事組合長、各組織の代表を務める組合員225名が参加。

一般社団法人 日本協同組合連携機構 主任研究員の西井賢悟氏が「JA自己改革で元気な農業・地域をつくる」をテーマに講演。JAが取り組む自己改革について学びました。

## 2019年度准組合員の集い



JA筑紫は、1月23日にイオンシネマ筑紫野で「令和元年度准組合員の集い（筑紫野地区）」を行い、准組合員など約70名が参加。上半期の業績と今後の取り組みについて報告や、エコーブ商品が当たる抽選会を行いました。

集いは、事業への理解、協力を深め更なる組織基盤を強化する目的。組合員の声を事業に反映させ、積極的な参加と利用を促すため、毎年開いています。

前半は、部門ごとに令和元年度上半期の実績報告や今後の目標を説明。また、事業概要やJA自己改革に関するDVDを上映しました。会場では、組合員が資料に目を通しながら、終始真剣な様子で耳を傾けていました。

後半は、抽選会を行いました。商品はエコーブ商品のジュースやうどんなど20点を準備。当選した参加者は大喜びしながら商品を受け取り「JAの事業を知ることができ、とても勉強になりました。今後もJAを利用していきたいです」と笑顔で話しました。

なおこの集いは、17日～30日まで管内全5地区各会場で開催しました。

## 高品質な麦を目指す



JA筑紫は1月24日、JA営農センターで、令和2年産麦の中間管理講習会を開き、部会員や福岡普及指導センター、JA全農ふくれん、JA農産課職員31名が参加しました。JA全農ふくれんや普及指導センター職員が、麦類情勢や麦の生育状況、今後の管理などを説明しました。

JA筑紫麦出荷者部会の久原暢部会長は「今年も1等Aランク獲得及び契約数量達成できるように中間管理の作業をしっかりと行いましょう」と呼びかけました。

## 今年からアスパラガス栽培開始



農事組合法人あしきは、今年から栽培を始めるアスパラガスの出荷に向けて、収穫研修会を行いました。

組合員やJA筑紫の担当職員など約15名が参加。JAアスパラガス部会の神崎光成委員を講師に招き、収穫や選果の仕方を説明しました。組合員は、神崎委員の説明を真剣に耳を傾けながら収穫作業を行いました。

法人は、収益を上げ更なる活性化に向けて、高収益事業のアスパラガス栽培に着手。3月に定植を行い、今回の収穫を迎えました。令和元年5月に部会へ加入し、部会員の圃場への視察や研修会の参加を重ね、栽培技術を学びました。

法人は、今年産のアスパラガスを10月まで収穫する予定です。

組合員は「これから高品質なアスパラガスを栽培できるよう、部会の諸先輩方から様々なことを学び、安定した出荷を目指したいです」と意気込みました。

部会には、法人の他に個人1人が加入。今後も部会で目合わせや巡回を定期的に行い、部会員一丸となって品質向上に努めます。また、農産物直売所ゆめ畑の店頭で部会員自身が試食販売を行うなど、販路拡大にも繋げています。

## 地域農業について市長と語り合う



JA筑紫機械利用組合・農事組合法人連絡協議会は1月27日、JA資材配送センターで、筑紫野市の取り組み「移動市長室」に参加しました。

この取り組みは、藤田陽三市長が自ら各地域へ出向き、市内で活動する団体などと対話を行うものです。市の情勢や市民のニーズを把握し、今後の市政に生かすことを目的に、月1回程度行っています。

藤田市長が「皆さんが取り組んでいることや、活動に対する思いを聞かせていただき、これからの市政に生かしていきたいです」と挨拶。会員はそれぞれの組合の歴史や現状を話し、市長らと意見を交わしました。

協議会の神崎勝義会長は「厳しい農業環境だが、組織間や関係する機関と連携をとりながら地域の農業を守っていきたいです」と抱負を述べました。

協議会は、生産体制の向上に努め、安定的な農業を展開するため経営の多角化に向け各種研修会などに参加しています。